

今月の法話

一、「東大寺三月堂と修験」 二、「諸仏の真言（千手観音）」

一、東大寺三月堂と修験

関東において不空羅索観音をお祭りしている寺院の数は少なく、本尊とされているお寺は殆どありません。十一面観音や千手観音などの他の変化観音に比べれば極めて認知度が低いというのが現状でしょう。そのような中で、当山では昭和六十年九月に東大寺三月堂で不空羅索観音の懸仏を開眼し、平成九年には本尊を造立しました。これらは三月堂の観音様のお導きと力強いご縁あつてのことです。最初に観音様を開眼した九月の縁起の良い日に観音様のお祭りを行うのが当山の習わしであり、本年も九月十七日に勤修いたします。十七日というのは、一般には千手観音様のご縁日とされますが、東大寺では毎月この日に三月堂での月例法要が行われ、今年は十七夜のお祭りも数年ぶりに開催されるとのことです。

さて、三月堂は東大寺という大変歴史の深いお寺の中にあつて最も歴史の古い建造物であります。かつては羅索堂、羅索院と呼ばれ、三月に法華会を勤修したことから三月堂、法華堂の愛称で親しまれています。この三月堂と二月堂近辺のことを東大寺内では上院地区と呼び、大仏殿周辺の堂宇とは趣の異なる寺院運営がなされてきました。それは山岳修験や特殊な行に注力するという点で現れます。二月堂の「行」は言うまでもなく「修二会」であります。三月堂の行は現在では失われてしまった「千日不斷花」という行です。この行はその名の通り千日の間、花を供えることからその名が付きます。ただし、千日回峰行がそうであるように、千日間連続で行うのではなく、毎年決まった時期に行う行法でありました。夏と冬に行われ、四十五日ないし九十日に及ぶ修二会以上に長い期間。さらに、千日と名づけていますが実は満行するのにかかる日数はなんと二千二百日。

この二千二百という日数は『梵網經』にあるお釈迦様が衆生を救うために八千辺往來したという逸話を省略したものです。毎年九十日こもつても二十年以上かかる計算です。それ故、満行するというのは極めて難しく、江戸後期には人員も減り遂には失伝してしまったのでは無いかと思えます。そして、この行を満行した記録が三月堂の柱に刻まれています。

この行法の肝心は「供花」と「閻伽水」の奉獻になります。三月堂で悔過などの法要を終えると行者は深夜に二月堂の裏から若草山へと上り、頂上の近くにある閻伽井から水を汲んでくる山岳修行を行うのです。さらに、この閻伽井は役行者、もしくはその弟子智光行者により作られたとの伝承があり、この行法そのものも大峰修験を中興し、真言宗修験の本拠地である京都の醍醐寺を開いた理源大師聖宝（八三二〜九〇九）によって作られたという極めて修験色の強い行法でありました。三月堂が修験者の道場であつたと言われるのはこの行法のためでしょう。

この行法はかつて三月堂には安置されていた「不動明王」を本尊としております。しかし、十一面観音のみ祀られている二月堂と異なり三月堂には様々な仏様がいらつしゃいます。それゆえ、不動明王のみならず「不空羅索観音」「吉祥天」「大黒天」「執金剛神」を本尊とした法会を行い、さらに山中では弁財天社や吉野蔵王権現、信貴山毘沙門天の選擇所が設けられるなど多くの神仏を拝します。そして、二月堂修二会と同じく悔過法要も行法の中に含まれ、「不空羅索悔過」と「吉祥悔過」が執り行われます。これだけ複雑な行法ですから一度途絶えてしまえば復活させることが難しいのです。不空羅索観音様を勧請した私達が滝行や山岳修行に勤しむことはこのようなご縁あつてのことでしょう。

不斷花と称されるように、この行法の根本は「供花」であります。実際には皆様が思うような美しい花々を供えていたわけではありません。毎日大量の花を使うわけですから、現在のようにいつでも花が手に入るわけでないため冬の行法などでは莊嚴し供える花を用意するのは難しいのです。そのため、花の代わりに檜しむぎが供えられました。そしてこの供花は三月堂だけでなく、大仏殿

や二月堂、諸堂でも行われていたようで一日に二荷もの櫛を使用したとされます。一荷が六十リットルとされるので、スーツケース一杯分ほどです。それが二つ分の櫛、その大量の葉を捨てて燃やすための場所が現在まで残っています。(三月堂の裏にある八角の延石)なぜ櫛が選ばれているのかというと弘法大師空海が唐から持ち帰った密教修法の中で櫛を青蓮華に見立てて用いた為です。また、櫛には多少の毒があり、独特のにおいを発するため動物除けの効果があるため、魔を払う植物として寺社では櫛を植えることがあるのです。

供花の際には以下の偈文を唱えます。

我今奉献 清浄妙花 唯願本尊 哀愍納受

「私は今、清浄で妙なる花を献上し奉る。ただ願わくば本尊よ、我ら衆生を哀れみ慈悲の心を持って納受したまえ」

この行法にあやかって、本年の観音祭より皆様からお花のお供えいただき、共にこの偈文を唱え、より美しく観音様を荘厳いたします。そのためのご寄進を一口五百円より受け付けておりますので、よろしければご参加くださいませ。

二、諸仏の真言 (一) 千手観音

千手観音は千手千眼観音ともい、衆生に差し伸べる救いの手が廣大無辺であることを示します。ヒンドゥー教において「千の腕を持つもの」はシヴァ神、「千の眼を持つもの」はインドラを指します。経典は『千手千眼観世音菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼經』であり、この中のある「大悲心陀羅尼」は曹洞宗を始め禅宗でよく誦誦されます。

多くは四十二臂ないし四十四臂の作例が多く、これは先述の経典に千のうち四十二手の持ち物が表されているためです。有名な三十三間堂の千手観音は十一面四十二臂で、最古の千手観音は行基の開眼とされる大阪の葛井寺の観音であるが、こちらは十一面千四十一臂となります。千の眼は手のひらに書かれている事が多いが、五百面とする経典もあります。また、不空羅索観音と異なりインドではその作例が見られず、中国や日本などの東南アジアに限られますが、それも八世紀以降と比較的新しい観音です。

真言「おん ばざら たらま きりく」

多くの経本にはこの真言を千手観音の真言としているが、それは正しくなく本来は金剛法菩薩の真言です。観音部通用の真言とされ、私は石仏など見た目での観音か判別がつかない場合はこの真言を唱えています。「ばざら」は「金剛」、すなわち壊れることのないことを、「たらま(だるま)」は真理を表します。そして「きりく」は観音(阿弥陀)の種子(梵字)です。合掌

南無日光妙法蓮華經

*九月のラッキーカーラ、暗剣殺、五黄殺(九月八日〜十月七日) ※一年通してのラッキーカーラは桜色です。
*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事や移動増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

九月のラッキーカーラ 青 ピンク 白 暗剣殺 南 五黄殺 北

【お知らせ】

- ① 十月の勉強会の日程：普賢光明寺(鎌倉) 十月一日(日) 三日(火) 七日(土) 午後一時より
横須賀支部：十月八日(日) 第二日曜日に変更 小田原支部 十月二十二日 午後二時より
- ② 滝行予定：九月十日(日) 塩川滝 集合七時
九月十八日(月・祝) 牧馬の滝 キャンプ場駐車場 集合八時三十分(滝行後に山梨の寺社の参拝を予定しています)
十月八日(日) 塩川滝 集合七時 十月二十二日(日) 夕日の滝 集合六時
- ③ 仏像彫刻教室 九月十日(日) 十月二十九日(日) 十一月十九日(日) 十二月十日(日) いずれも十二時より
- ④ 不空羅索観音大祭は九月十七日(日)です。(御欠席の方は十月の勉強会にて守護符をお渡しいたします)
- ⑤ 小田原別院にて不空羅索観音祭を十月二十二日(日) 厳修します。本年は本尊開眼十周年となるご縁起の法要となります。法要は十二時から厳修、勉強会は法要後に行います。ご出席を希望される方は人数確認が必要ですので必ず寺の方までお知らせください。
- ⑥ 観月会(十五夜法)の日程：十五夜：九月二十九日(金) 十九時より(護摩法)
十三夜：十月二十七日(金) 十八時より。(阿字観瞑想法) 詳細は別紙にてご確認ください。